

名古屋市立山王中学校で「防災教室」をおこないました

中川消防署では保育園等を中心に防災教育を実施してきました。それと並行して10代の少年たちにこそ防災教育が必要と対策を練っていたところ、山王中学から子供たちに地域の「防災ハザードマップ」作りをさせたいので相談にのってほしいとの依頼がありました。

11月から1カ月ちょっとの期間で10時限の「総合学習」の時間で行われ、そのカリキュラムの目的は

- ・地域の一員として防災に対する意識を高め、学習を通してより良い地域にしようという意欲を高める
- ・災害を未然に防ぐ方法や災害時の行動を身につける
- ・防災学習を通して学んだことを地域に発信する

というものです。これに、中川消防署からは「釜石の奇跡」にあるように、「助けられる人から助ける人になろう」をキーワードにして全面サポートしました。

まずは

「負けねど」

平成23年11月2日
山王中学1年生
防災教室
中川消防署
予防課予防係 後藤 直仁

これからの総合の学習の中で

- ・自分の住んでいる街のことを知る
- ・地震(津波)に遭遇しても生き延びる方法を学ぶ
- ・家族でも防災会議をする

- ・ひとたび大災害が発生したら、自分たち中学生が**重要な役割を担う**ことになることを自覚する

1年生103人に「負けねど」と題する講演で、東日本大震災での東北の中学生がどのような状態になったのか、どのように行動したのか、そして今はどうしているかを説き、中学生だって重要な役割を担うんだということを、今後の学習の中で学んでもらうため講演をしました。

その後防災フィールドワーク(以後FW)をとおして、防災マップ作成の下準備や事前学習、そして現地踏査を経て、いよいよマップの作製を行いました。



調べる項目や担当割を班ごとに決めます



AEDを見つけました



通学校区には堀川や中川運河があり護岸などの崩落や液状化も心配です



撮影した写真や調査した資料を整理します

D I G用地図に書き込みます



シールや番号をつけて工夫します



完成です



マップ上の番号をたどると危険箇所や避難所の情報が生徒目線で作られています

最終日には露橋・広見・八熊消防団の三団長はじめ多くの団員が生徒に応急担架や徒手搬送の実技訓練を「助けられる人から助ける人に」なるよう熱心に行いました



応急担架の作製



二人搬送（危なっかしいなあ）

完成したマップは通学校区である露橋・広見・八熊学区のそれぞれのコミセンに掲出して、地域住民のみなさんに見ていただくことになりました。

これらの学習で得た知識や技術は必ず生徒諸君の役に立つことと信じています。これが単年度のみ活動にならないよう進級してからも続けることが必要と思います。山王中学のみなさん、中川消防署と協働でぜひとも継続して学んでいきましょう。